

# あじえんだ

第6号



桂川にかかる猿橋 日本三大奇橋の一つ

## 《も く じ》

- キーワード随想「ふるさとの川」……………2
- 上下流交流事業実施報告……………6
- 流域シンポジウム開催される……………7
- 流域ウォッチング 4 清流の魚たち……………8
- ツアー&ウォッチング/クリーンキャンペーンのお誘い……………10
- シリーズ 生きものたちの語る相模川 3……………11
- 市民・事業者・行政のページ……………12
- 相模川紀行「流域地名考」……………15

## 《キーワード随想》

# ふるさとの川

『うさぎ追いしかの山 小鮎釣りしかの川・・・』誰にでも一つや二つふるさとの川について思い出があることでしょう。

川の思い出とともに、これからの望むべき桂川・相模川の姿を4人の方々に綴っていただきました。

※掲載は五十音順別です。

## 私の故郷の川

河 又 猛

私の故郷栃木県茂木町河又は、水戸から北西に45キロ、八溝山脈の南西の端あたりに位置する、山峡の農村です。

生家の下を流れる小川が、ご紹介したい「木須川」です。

木須川の清冽な流れに沿って、通学路が続いていましたので、私たちには、この上ない楽しい遊び場となっていました。

せせらぎの形のまま固まっていた氷がとけて、若草の萌黄があたり一面を埋め、咲き匂う桜の花が散りはじめるころから、山吹の花が山すそや川辺を鮮やかな黄金色に染め分けてゆきます。このころになると、溪間全体がカジカガエルの合唱に包まれます。鮎の香りが川風にのって流れ、狭い流れの岸寄りをいくつもの鮎の集団が跳びはねながら、次々と上流を目指して遡上してきました。学校の帰り路に、棒で叩いただけで何匹かはとれたものです。大きな鮎をとった友だちが、偉大な人のように思えたものでした。

こんな故郷の小川が懐かしく、情報も乏しいまま、一昨年7月、友人を伴って久しぶりに木

須川を訪れました。岸边に立って、以前と比べてあまりにも変わり果てた様相に、呆然としてしまいました。遠く離れていた私には知る由もありませんが、流量も以前の3分の1くらいに減り、昔あった大石も見当たりません。混濁した流れからは悪臭が立ちのぼり、裏返したほとんどの石の下は黒く変色しています。イトミミズもいます。昔、大鮎がいた淵には、全身に赤色の吹出物や白い綿状の斑紋を付けたハヤが、中層に力なく浮いていました。

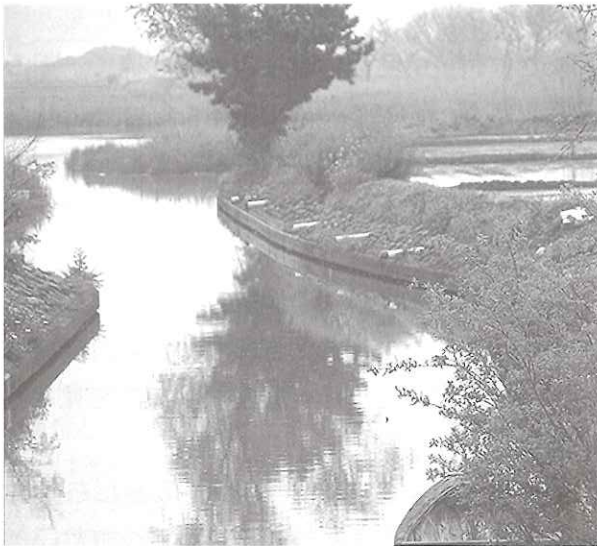
以前は小川の中で主流派だった、カジカ、ギバチ、カマツカ、ヤマベ、スナドジョウも見当たりません。せせらぎの第一奏者だったカジカガエルも、たまに見かける程度になったそうです。農作業で悩まされたブユもいなくなり、助かってはいるそうですが…。

年中どこでも見られたカワセミ、ヤマセミは、見かけると地元の人でさえ感激して、話題になるそうです。

近くには、十年前ごろから、150ヘクタールのゴルフ場が営業を続けており、大木須の源流地帯にも現在「産業廃棄物処理場」の建設が予定されています。コンクリート護岸は12、3キロの流れの3分の1前後にも及んでいます。

以上の状況の中で、わずか10キロ余の谷間の生き物たちに、深刻な危機が迫っています。生き物はすべて、直接間接に関連した中でしか





生存できないものです。人間も、またその一環の関わりの中でしか生存できません。

わずかな流れの、小さな溪間の環境は、一瞬のうちに深刻な事態に至る危険があると考えられます。「河川水辺の国勢調査」ならびに「多自然型川づくり」等の指針に基づいて、徹底した調査と、適切な対策が速やかに実施されるよう、切望いたします。

(海老名市・市民)

## ふる里の川 道志川

佐藤泰男

私の関係する道志村漁協が設立されたのは、昭和25年4月20日である。以来50年の歴史を顧みるとき私の脳裏に浮かぶのは、道志の清流での子どもたちの魚捕り、**せせらぎ、風景、自然**である。

30キロに及ぶ道志川の流れは今もその顔を変えずに流れているように見える。しかし、その流れも何回かの危機を迎え、そのつど道志漁協を中心とする村民の選択によって回避されてきた歴史がある。道志村漁協の組合長としての立場から考えてみたとき、先人たちの行動、選択に本当に頭の下がる思いがする。

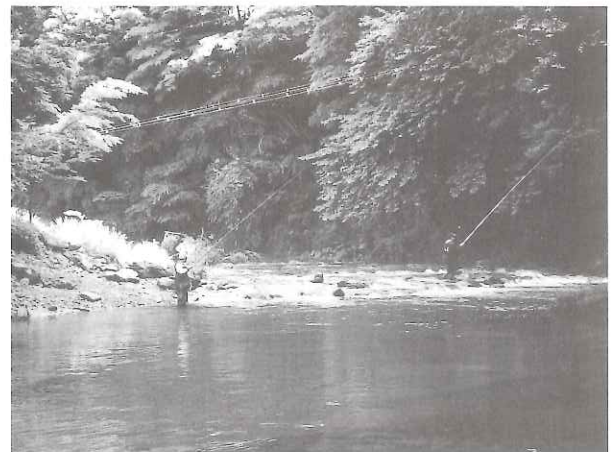
昭和28年の神奈川県による津久井湖ダムの建設、昭和39年の山梨県による道志ダム建設

問題、平成2年の道志村ゴルフ場建設問題等、どれをみてもその対応が違っていたら私たちの誇る道志川の清流はなかったことは間違いないと思う。経済効率を優先した20世紀の時代に、よく道志の清流を残す選択をしてくれたという念を深くするのである。特に、道志村が推進したゴルフ場建設問題については、私自身、反対運動の事務局長を務めたこともあり、思いは深いものがある。

さて、道志川の使命として横浜市民の**水源地**でもあることから、多少開発は制限しても水質を守るという課題があるわけである。このため今では、横浜市から職員が別に派遣され、下水処理事業など、物心両面にわたり応援していただいている。まことに頭が下がる思いである。

道志川の清流を将来的に保持して、魚たちと共存しながら横浜市と良好な関係を描くとき、山間地といわれる道志川も、他の川の比ではないにしても汚染は確実にすすんでいる。それは、カジカの減少、アユの冷水病、放流魚の育成数減少等であるが、道志村漁協としてこれらの情報をもとに地域の環境問題に声を上げるときがきていると思っている。そして地域における漁業協同組合はそれにふさわしい団体であり、漁協運動者としての使命ではないかと思う。

少し具体的になるが、環境運動団体として考えるのは、行政に対し要求するだけでなく、道志の川と魚たちの両方から地域全体をみて、農業、林業、生活面、教育面から課題を示し、これに漁協として提案ができないものかと考えている。





環境問題という大きすぎて的をしぼりきれない面が確かにあるが、住民（特に女性）の意識が変われば、10パーセントの家庭で実行することで確実に水質浄化につながるような技術も出てきているし、その先例も私は見ている。特に興味を持って期待もしているのは最近の微生物技術である。この技術をとり入れることができれば、21世紀は間違いなく地域の環境問題解決のきっかけになるものと思っている。

しかし、これを情報発信して行政に提案して問題解決に結びつけるのは、私には残された時間が短かすぎるが…。こんな思いで胸を日々ときめかしている71歳の私である。

（道志村漁業協同組合組合長）

## ふるさとの川

中村道子

毎年秋になると、台風の近づく夜を思い出します。

荒川の堤防がよく決壊して出水した江戸川区に育った私は、大きな台風が近づくと、ランドセルと風呂敷包みを枕元において眠りに就いたものです。強い風と雨の音に加えて、家のきしみ揺れる音で寝付かれず、恐怖感で一杯になりました。

あらしの過ぎ去った後は、台風一過のみごとな青空が印象に残っていますが、浸水した家の後始末で大変でした。

荒川の支流になるのでしょうか、家の前を流れる幅2メートルばかりの川ではよく遊んだものです。

生えているヨシを抜こうと、かえって私が川に落ちてしまったり、川にせり出ている庭のイチジクの木に登り、熟した実を採って食べたりもしました。このときのイチジクの味は、忘れられないものの一つになっています。

兄は四つ手網で魚取りをしていましたが、あの川が小さいとはいえ、魚が生息できるせせら

ぎだったのが、記憶に定かではありません。

また、付近の風景は現在とはほど遠く、蓮の田園が広がっていて、夏の朝早くには蓮の花が開くときのポンという音が聞こえるとのことでしたが、朝寝坊だった私には聞くことができませんでした。

友だちと小さな小川で泥遊びやエビガニ採りをよくしました。あの大きなハサミに挟まれないようにつかまえるのが面白かったのを覚えています。

時には近所にいる兄弟ぐるみの友だち集団を、父が荒川の土手に連れていってくれたことがありました。

この大きな川が氾濫してゼロメートル地帯を水で覆い尽くしてしまうとは思ってもせずに、楽しく遊んでいました。

今、桂川・相模川の流域である上野原町に住んでいますが、江戸川とはまったく違った町並みで、河岸段丘の見本のような駅周辺の風景が特徴です。

この河岸段丘の下に流れる川は生活の場から隔離されていて、町に流れるのは用水路としてであり、子どもが水遊びに戯れることはできません。

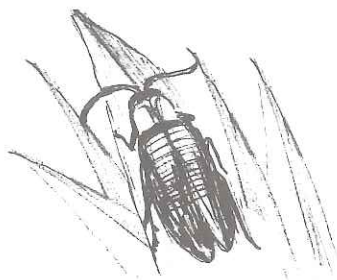
水との関わりを身近にし、水源にたいする認識を深め、上流とか下流の考え方よりも、どこにあっても流れは水源になり得るように、川の水質保全について様々な対策を取るとともに、排水についてももしっかり対策をしていかねばならないと思います。

（上野原町・市民）



# ホタルの舞う河和田川

八木 伸



わが故郷、越前平野（福井県嶺北地方）には、母なる川「九頭竜川」がある。この川を一本の大木にたとえれば、幹は日野川・足羽川・永平寺川を始めとして名も知れぬ多くの枝により支えられている。これらの枝先には、大小いくつかの『ダム』という名の葉っぱが付いている。幹の根もとには東尋坊、大地は日本海である。大振りの枝の一つに日野川がある。その小枝に浅水川、さらに上流の枝先に「河和田川」がある。ここに、わが里がある。

河和田川の土手の一方は山、向こう側は水田地帯で、平野の端を蛇行している。川幅は10メートルにも満たないが、『瀬』あり『淵』あり、流れの形もまちまち、土手にはカヤ、ヤナギなど季節の草花が自生している。水面には、小魚が群れをなして泳いでいる。緩やかな流れの水辺の葉陰には、メダカの学校も開校している。川は子どもたちの遊び場であり、生活の一部——水洗い場でもある。一本の木橋には、あるやなしの欄干がある。幅2メートル程度、四万十川の沈下橋を想像いただきたい。

夏の夜のひととき、夕食後近所の大人や子どもが三々五々集まり、橋の上にゴザを敷き、思い思いのスタイルでホタルの乱舞を観賞したものである。

川面に吹く風に、暑苦しい長い夜、涼を求めてしぜんに集う。夜空の星も美しいが、真っ暗な空間に、ホタル火の乱舞も幻想的で美しい。大人と子どものスキンシップも十分あったように、子ども心に覚えている。今は、こんな田舎にも生活の都会化が進み、川幅も広く、土手は人の手が加わり、半世紀前の情景などしのぶ由もない。

こんな田舎のこんな小さな川にも、自然の浄化作用を遙かに超える汚れで、川の悲鳴が聞こえてくるようだ。いつまでも田舎は『田舎』であってほしいと思う。自然に恵まれた田舎ならではの、自然と調和した持続可能な開発・発展を願いたいものである。

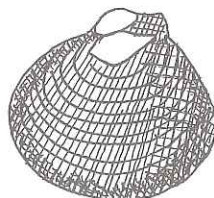
（座間市・市民）

WANTED!

## 相模川水系で『マシジミ』を捜しています

相模川の中流域にはその昔、淡水シジミの仲間の『マシジミ』がたくさんすんでいました。宍道湖や十三湖、利根川下流など、海水と淡水とが混じりあう汽水域とれるおなじみのシジミ(ヤマトシジミ)によく似た、黒っぽい色をした貝です。かつては、日本中の大中河川にふつうに見られましたが、ここ半世紀ほどの間に姿を消しつつあります。そして、マシジミと入れ替わるように増えたのが外来種の『タイワンシジミ』です。

タイワンシジミは殻が黄色～黄褐色で、マシジミよりはずっと小さく、雌雄同体。しかも雄性発生といって、精子の核だけで発生する不思議な生きものです。この雌雄同体のせいか、70年代ごろから世界中の川に勢力を広げつつあるのだとか。相模川でも、タイワンシジミばかりが目につくようになりました。



### マシジミ

殻長は40mm、殻皮は黒く、規則正しい輪肋、殻の内側は紫色。きれいな水質と水底が砂質であることが生息の条件。

しかし、セイヨウタンポポがふえても各地にカントウタンポポが残っているように、流域のどこかには、先住者のマシジミたちがひっそりと暮らしているかもしれません。皆さんのなかで『マシジミ』の健在を発見された方は、当会報の編集委員会、または神奈川県水産総合研究所内水面試験場（TEL042-763-2007）までご一報ください。情報をお待ちしています。

たずねひと



## 上下流交流事業・地引き網体験（2000年9月9日実施）

本年度2回目の上下流交流事業として、茅ヶ崎市菱沼海岸で地引き網と相模川流域の下水を処理している下水処理場の見学などが行われました。今回、神奈川県での参加希望者が80人募集のところ420人を超える応募があり、抽選となりました。小さいお子さんも参加され、獲れた魚に歓声をあげていました。桂川・相模川の豊かな水が育む相模湾の海の幸を収穫し、森・川・海のつながりの大切さを実感できたことと思います。

### 海の宝物

志村和泉

「わっ、きれいだぁ。」

まるで海を初めて見たかのように私は言った。きらきら光る海を見ながら、「楽しみだなぁ。」と今度は心の中で思った。

海には何度も行ったことがあるけれど地引きあみをするのは初めてだった。地引きあみは教科書などでしか見たことがなかったから、どのようにしてやるのかわからなかった。でも、久しぶりにきらきら光る海を見たら、楽しまずにはいられないと思った。

「えっ。」

友だちと話をしていた私に、地引きあみが始まるという声が聞こえた。話に夢中だった私が話すことも忘れ、地引きあみをするにどきどきしてきた。

先生の後にならんで歩いていて私が見たのは、おばさんやおじさんたちだった。きっとこの人たちの中に漁師さんがいるのだろうなと思った。とれた魚を食べられるものとそうでないものと見分けられるのだから。

「よいしょ。よいしょ。」

いよいよ地引きあみが始まった。さっきよりも、私はどきどきしてきた。こんなにきんちょうした

のは、久しぶりだ。

ぐいぐい、つなを引いた。つなはそんなに長くなかったかもしれないが、私にはとても長く感じた。いっしょに引いたおばさんやおじさんたちの中には、なれているような人や私たちと同じで初めてやっているような人もいた。

やっとあみが引き上げられた。そして、魚がちらちら見え始めた。私がびっくりしたのは、ヒトデだった。まわりのもみんなもびっくりしていた。赤いヒトデは、何度も見たことがあったが青いのは初めてだった。

魚もたくさんとれた。海の中には、たくさんの生き物がいるんだなと、きらきら光る海を見ながら私は思った。

（上野原町立島田小学校 5年）



### ご報告



山梨県大月市笹子での植林体験に参加させて頂いた折、ヒラタケの植菌指導があり、おみやげに頂いて帰りました。夏の高温と乾燥で菌が死んでしまったかと思い、あまり気にもかけずに放置していましたが、11/5朝、きのこが出ていたのを見つけました。収穫したら100gほどあり、うれしくて写したものです。

（横浜市 熊谷松浩）

## 流域シンポジウム開催される

# 清く豊かに川は流れる ～飲み水から桂川・相模川流域を考える～

2000年11月23日（木）に寒川町民センターで流域シンポジウムが開催されました。

午前に行われた基調講演（村瀬誠氏『蛇口の向こう側にもっと目を向けよう』）は、参加者の皆さんにたいへん好評でした。また午後のパネルディスカッションも、多彩なパネラーの方々の事例報告に熱心に耳を傾け、その後のフロアー討議では、会場から活発な意見が出されていました。また、アトラクションで披露されたハーモニカ演奏を堪能し、流域団体の活動を紹介する展示コーナー、流域の湧き水や水道水の味を体験する利き水コーナーでも参加者の関心をあつめているようでした。共同主催者として参加し、積極的に運営に協力いただいた湘南地域協議会を始め、関係者の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

シンポジウムに参加された皆さんからのご意見・ご感想を一部紹介します。

●身近な生活態度の転換を訴える基調講演は有意義だった。

●雨水の利用、資源を有効利用するのはとっても大切なことだと思いました。雨がふることを喜べる設備を社会全体で、個人で整えていきたい。

●内容豊富でよかった。生活のための飲料水についての考え方が、以前にも増して多様化してきたことを思う。21世紀のルネッサンスも考えられる。動物も人間も、生体によい水を供給されることを願う。

●環境保全に向けて多くの住民の活動があることを知ってうれしく思ったが、総人口からみたらどのくらいの比率になるのだろうか。増えそうが増えぬ感もあって、関心を持つ人を増やす手だてが必要不可欠に思えてならない。

●切り口は「川」であっても、環境問題を考える視点（原点）は同じだと思いますので、川のことだけでなく、他の分野の人とも（本日は農業の方、工業の方もいらっしやうように）交流できると一層、輪が広がっていくと思います。

●講師が行政側の方なのでおどろいた。このような発想があり、実現できたことはとてもよかった。



●ダムは歴史は大変難しく「ダムはいらない」という声も聞きます。また反対にダムの水をきれいにするにはその上流の水からきれいにしなければならないという声も聞きます。大変難しい問題ではありますがきれいな水を望む気持ちは同じです。基調講演にもあったように社会のシステムを根本から考え直して行かなければならない時代であると思います。



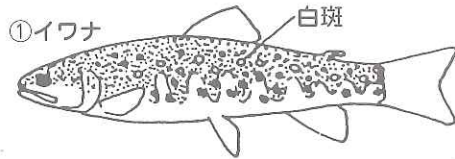
# 流域ウォッチング④

# あるじ 清流の魚たち

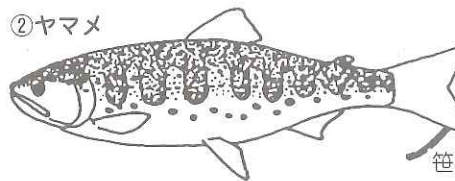
●魚のイラストは「相模川の魚と漁」(平塚市教委 1978) から

相模川水系では、これまでに130種近い魚が見つかった。その中には、漁業や釣りを目的に放流された国内他地方、あるいは外国から移入されたものが多いのが、この川の特徴である。ダムや堰で遡上できなくなったアユの代わりに、琵琶湖から稚アユを移入・放流したさいにまぎれこんだ魚も10種類ほどいる。また魚類のほかにも、中・下流にはタイワンシジミ(淡水シジミの1種)やテナガエビ、河口部にはモクスガニなどが生活している。

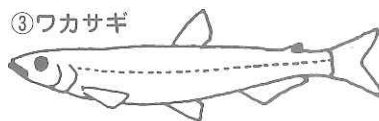
①イワナ(サケ科) 桂川の支流の最上流部冷水域にすんでいる。神奈川県内支流にはいない。体長は30cmに達する。



②ヤマメ(サケ科) イワナに次ぐ冷水域にすむ。桂川や中津川などの支流に見られる。マスと同じ種に属し、体長は30cmに達する。



③ワカサギ(ワカサギ科) もともと北日本産の魚だが、各地の湖に放流されている。とくに山中湖では有力な漁業資源である。体長は約11cm。



④ウグイ(コイ科) 源流の山中湖から相模川河口部の汽水域まで。最も広く分布する。体長は30cmを超えることがあり、美味な魚として知られる。

⑤カジカ(カジカ科) 3~5cmの小型の魚だが、ときに10cm以上になることも。かつては桂川から厚木付近までいたが、今は城山ダム下が下限。

⑥ヨシノボリ(ハゼ科) ハゼ科の中では最も上流部にまでさかのぼる。腹びれが変形した円形の吸盤で岩や水草に吸いつくのでスイツキボラとも呼ぶ。

⑦ハス(コイ科) 相模湖や中流域でしばしば捕獲される西日本原産の移入種で、30cmほどになる。琵琶湖からアユの稚魚と一緒にやってきたらしい。

⑧オオクチバス(サンフィッシュ科) ブラックバスとも呼ばれる北米原産の魚。相模湖や津久井湖に不法放流され、下流域にまで広がった。

⑨アブラハヤ(コイ科) 桂川から相模川の中・下流にかけて広く生息し、12cmほどになる。ウグイなどに比べるとかなり小さい。

⑩オイカワ(コイ科) 琵琶湖から移入・放流したアユの稚魚にまぎれ込んで、猛烈にふえた。西日本では16cmほどだがここでは20cmを超える。

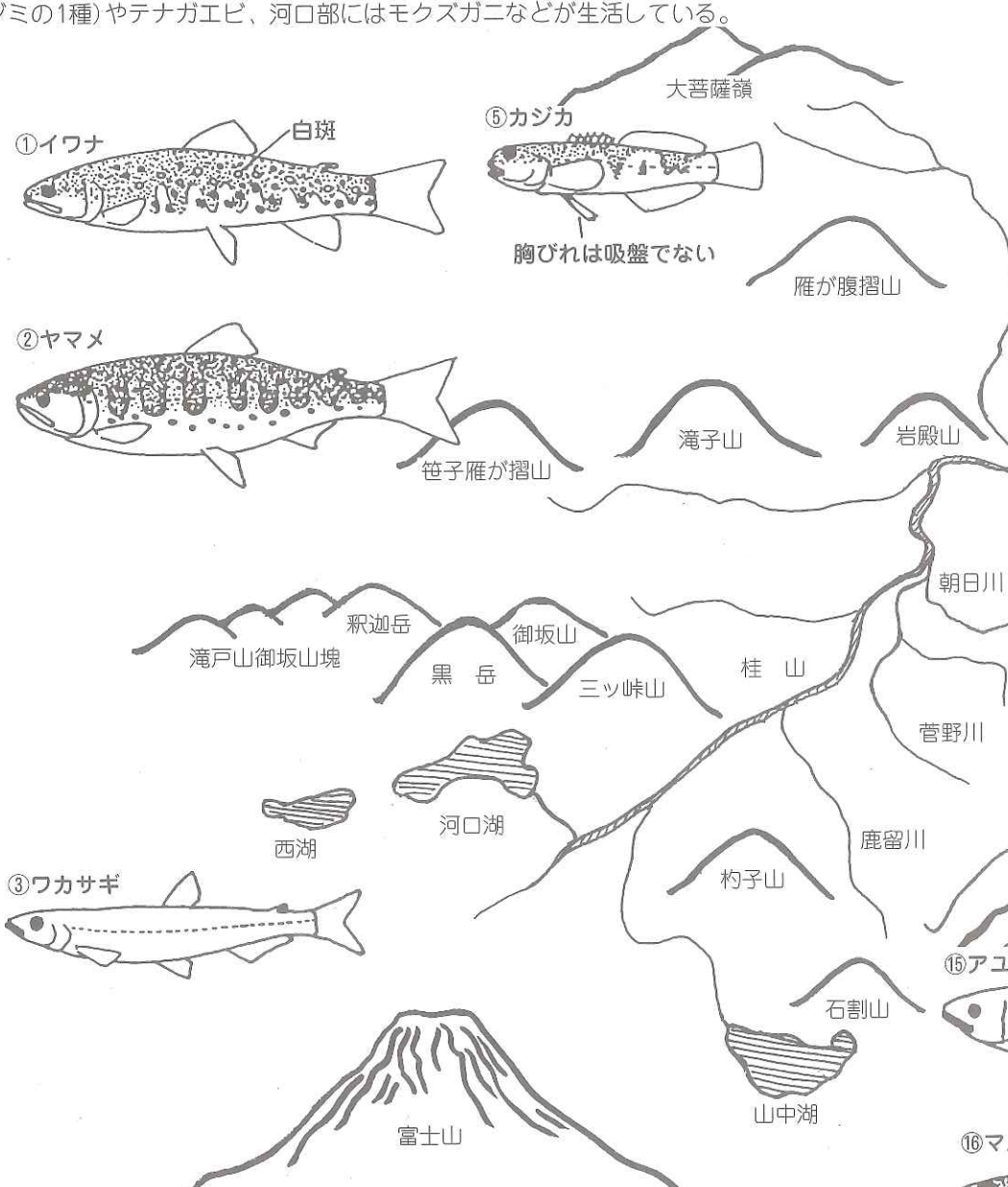
⑪コイ(コイ科) 相模川では最大に育つ人気釣魚の一つ。養殖も行われ、山中湖にも放流されている。体長は100cmを超えることがある。

⑫カマツカ(コイ科) 頭の形に特徴がある、砂底の川が好きな底生魚。相模川中流域にふつうである。川魚の中では美味な方に属する。

⑬ドジョウ(ドジョウ科) 本来は田んぼや池、小川の魚だがダムの影響で本流の泥質化が進み中・下流で見られるようになった。体長15cm。

⑭ギンブナ(コイ科) 中流から河口部流水域にかけてふつうにみられ、オイカワとともに多い。マブナとも呼ばれる。これまでの最大は24cm。

⑮アユ(アユ科) 相模川を代表する食用川魚の王様。下流域で孵化した稚魚は海に下り、春になると上ってきて、昔は大月・都留にまで遡上した。



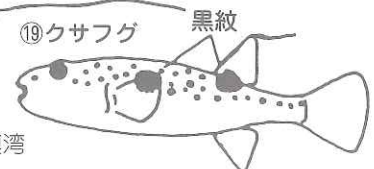
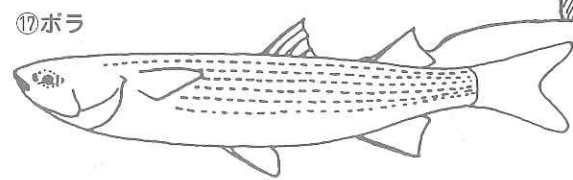
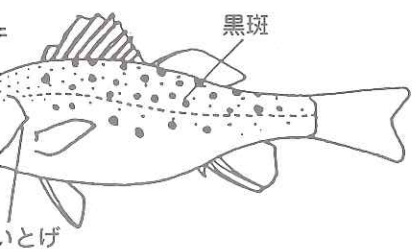
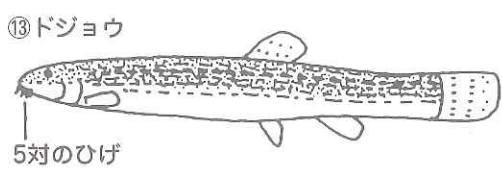
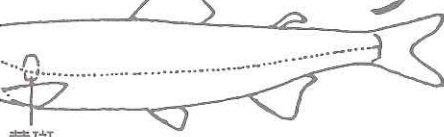
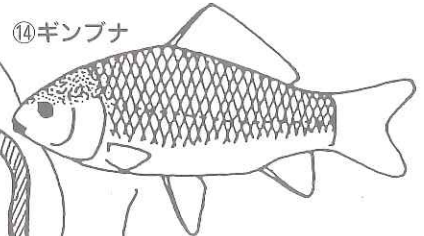
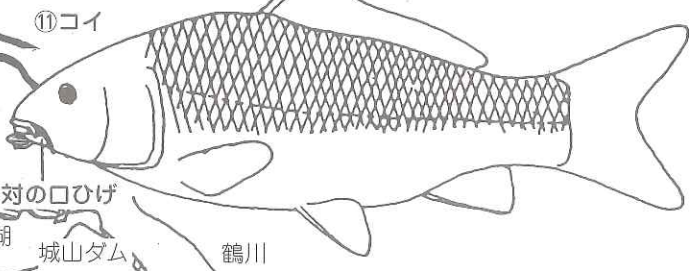
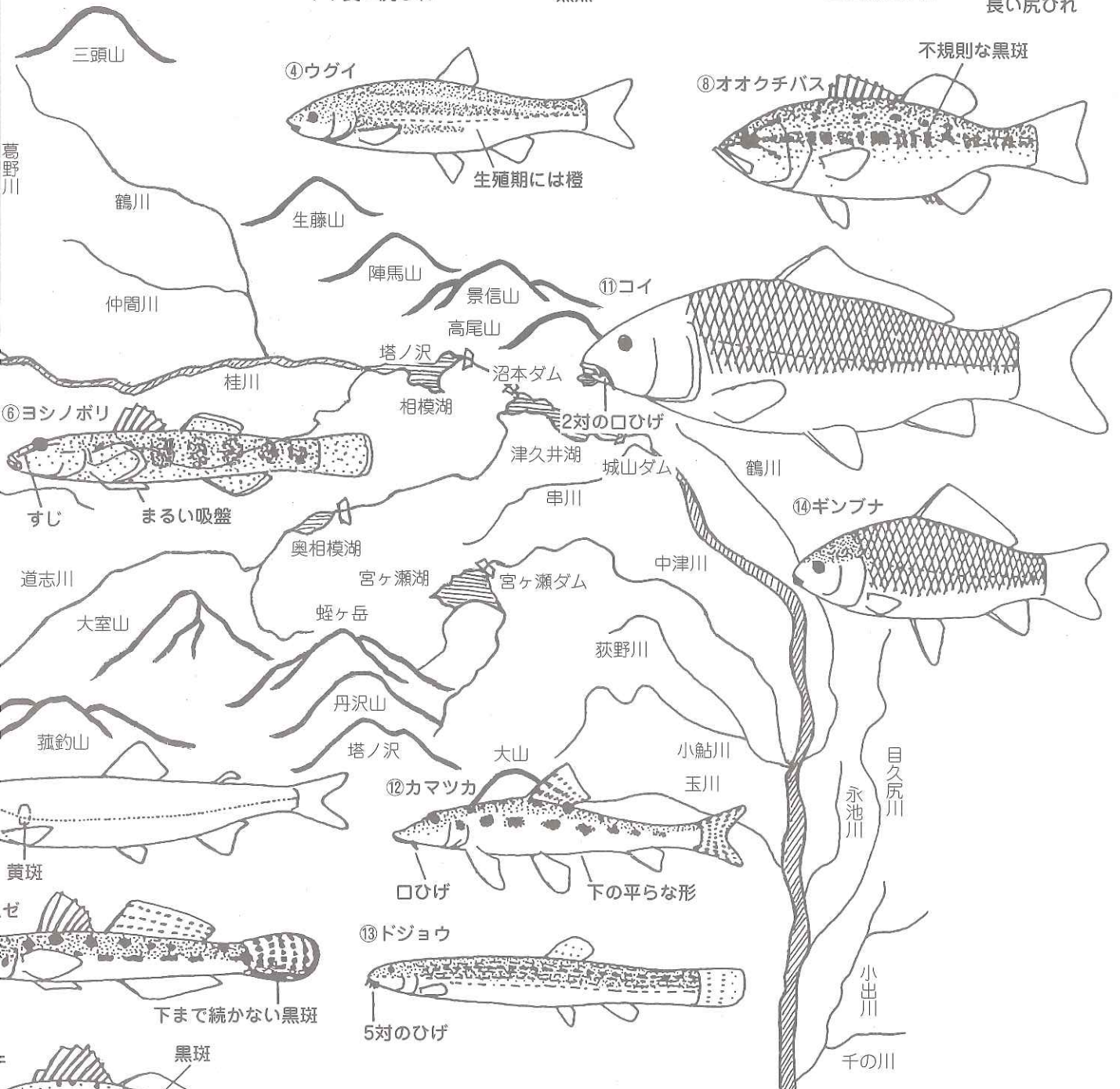
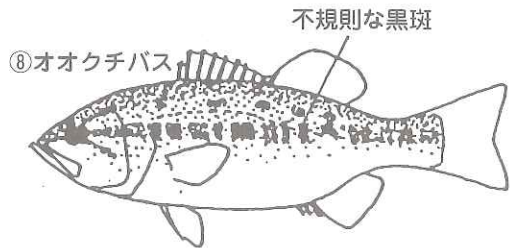
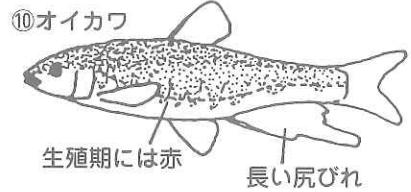
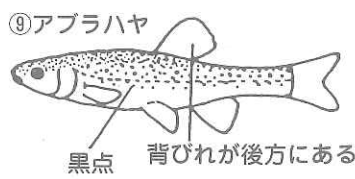
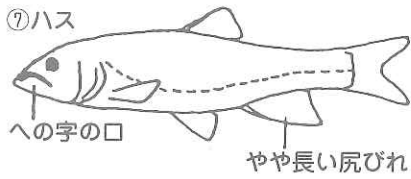


⑩マハゼ (ハゼ科) 河口域に多くすむが、釣り場はその2~2.5キロ上流が中心で、生息域はいま、さらに河口から4キロ付近まで広がっているという。

⑪ボラ (ボラ科) 海岸~汽水域から淡水域深くまで入ってきて、水面によくはねる。堰ができる前には、厚木村近よりもさらに上流にまで来ていた。

⑫スズキ (ハタ科) 本来は浅い海にすむが、しばしば川をさかのぼる。幼魚はフッコ、少し成長してセイゴ、成魚になってスズキと呼ばれる出世魚の1つ。

⑬クサフグ (マフグ科) 体長8cmほどの小型のフグで、えらの後ろと背びれつけ根に黒い紋がある。内湾などの浅海にすみ、汽水域にも入る。



## 桂川・相模川の自然をもっと知るために 皆さんの参加をお待ちしています。

### ツアー&ウォッチング

桂川・相模川流域の姿は本来どうあるべきかを考えるために、「どこにどんな問題があるのか、この目で確かめよう」という市民からの提唱で、99年度から始めたのが「流域ツアー&ウォッチング」です。自然の息吹きにふれ、心身のリフレッシュをはかりながら、自然にお詳しい地元の方にガイドをお願いして理解を深める楽しい学習会でもあります。年間6回ほどが予定されています。ふるってご参加ください。

#### ■これまでの実施地区

- ①'99. 7. 18 相模川下流（馬入橋～寒川堰）
- ②'99.12. 12 桂川県境部（藤野町弁天橋～大月市川合橋）
- ③'00. 3. 26 朝日川→桂川笹子川合流点→大月河川公園（大月市）
- ④'00. 5. 14 相模川支流（相模原市・鳩川・姥川・道保川・八瀬川・四川合流点）

- ⑤'00. 7. 16 相模湖→弁天橋→名手橋ほか（相模湖町）
- ⑥'00. 9. 24 桂川源流、忍野八海（忍野村）
- ⑦'00.11. 29 相模川支流（厚木市、小鮎川→荻野川→三川合流公園）



荻野川のヨシ

### クリーンキャンペーン

私たちが策定した行動指針（アジェンダ）にもとづいて、「散乱ごみ、不法投棄のない地域づくり」と「市民、事業者、行政が連携した取り組み」を進めることを目的として、年間を通じ、流域の各地域で、「桂川・相模川クリーンキャンペーン」を実施しています。簡易水質検査や自然観察会、その他のイベントと併せて行う会場もありますので、お誘い合わせの上、お近くの会場にご参加ください。



高田橋周辺のクリーンキャンペーン

#### ■おもな実施会場（2000年度）

<山梨県>山中湖畔、新名庄川（お宮橋～白久保橋）、明見湖、朝日川（小学校付近）、桂川（大輪橋下、城南橋下・大池橋～富士見橋）、菅野川下流など。

<神奈川県>相模川（小倉橋周辺、高田橋周辺、新戸スポーツ広場周辺、上郷グランド周辺、朝霧河畔緑地河川敷、神川橋上流、座架依橋上下流、三川合流地点、河口干潟ほか）中津川（八管橋上流）、千ノ川、小出川、駒寄川、小鮎川、荻野川（源流域、下流河川敷）など。

#### ■お問合せは

- ・山梨県森林環境部環境活動推進課  
TEL(055)223-1503 FAX(055)223-1507
- ・神奈川県環境農政部大気水質課  
TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846



## コアジサシvs.ユリカモメ

文・イラスト 浜口 哲一

**コアジサシ**：ああ、くたびれた。やっぱり生まれ故郷はいいなあ。タチヤナギの芽がほころんで、緑色に霞む川岸…。オーストラリアから飛んで来た身には、この景色が目にしみるんだ。

**ユリカモメ**：長旅、ご苦労様。久しぶりだね。

**コアジサシ**：誰かと思えば、ユリカモメさん、まだ日本にいたのかい？黒い帽子をかぶっているという事は、おめかし完了、そろそろ旅立ちだろう。

**ユリカモメ**：ぐずぐずしていて悪かったわね。でも私たちの故郷は、ずっと北、まだまだ雪の中なのよ。そろそろ北上を始めようかと相談していたところ。ところで、コアジサシさんは、これから巣作りでしょ。今年はいい場所が見つかるかしら。

**コアジサシ**：人間の少ない北国に帰るあんたたちがうらやましいよ。実際のところ、今年は巣が作れるかって、毎年心配しながら日本に帰って来る仲間が多いんだよ。

**ユリカモメ**：そうねえ、コアジサシさんの注文は難しいから。石がごろごろしているような河原か中州でなければだめなんですよ。草が生えているのは嫌がるし。それに人や車が入ってきても困るのよね。

**コアジサシ**：何しろ、車が入ってくると巣がつぶされてしまう始末だし、人が出入りするとおちおち卵を抱いてもいられないからね。悪いことに最近ではカラスが増えてきて、巣を留守にしていると卵がとられてしまうことがあるんだよ。

**ユリカモメ**：今年も、3月になったら河原でバーベキューをする人が増えてきて、散らかしたゴミにカ

ラスがたくさん集まっているのを見かけるようになったわ。カラスだって我々鳥仲間だから、あんまり悪口も言えないんだけど、あれだけ人に頼った暮らしぶりというのは、野鳥らしくないわね。

**コアジサシ**：なんと言っても悪いのは人間、川にゴミを捨てるとカラスが増え、それが我々にも迷惑になっていることを知ってほしいもんだね。

**ユリカモメ**：巣作りの話に戻るけど、このごろ、コアジサシさん達の巣作りの場所を確保してくれている人がいるって聞いたけど？

**コアジサシ**：そう、相模大堰のあたりでね、毎年大水でも水につからない中州を作ってもらっているんだ。そこだと人も来ないから安心して子育てができるよ。

**ユリカモメ**：餌の方はどうなの？

**コアジサシ**：僕らは魚を食べているんだけど、相模川には小魚がいっぱいいるから、餌の方はまず安心さ。釣り人の中には、僕らが魚を横取りすると言って怒る人もいるけど、魚も水鳥もいてこそ川なんじゃないかなあ。鳥の姿も楽しむゆとりっていうものが欲しいね。

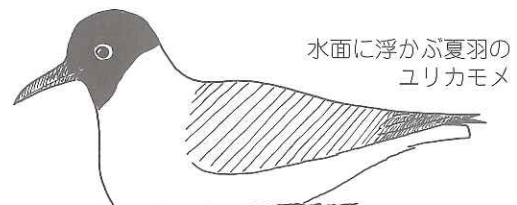
**ユリカモメ**：なかなかいいことを言うじゃない。それじゃ、私は旅に出るわ。お元気でね。

(平塚市博物館学芸員)

## 出席者のプロフィール

**コアジサシ**：カモメ科の水鳥。夏鳥で、相模川では3月末から9月くらいまで見られる。川面を軽快に飛び回り、ダイビングして小魚を捕らえる。

**ユリカモメ**：カモメ科の水鳥。冬鳥で、10月から4月初めまで見られる。海に多いが、川の中流まで群れて遊る。

魚を捕らえた  
コアジサシ水面に浮かぶ夏羽の  
ユリカモメ

## 《市民活動団体紹介》

### カーカネットの会

加々美清子

「カーカネットの会」は平成7年から、富士吉田市の北東部にある明見湖の水質浄化を目標に、湖周辺の清掃、美化活動などを続けています。会の名前である「カーカネット」とは、宝石、真珠、金などをつないだ首飾りを意味する外来語です。会員の個性と、チームワークを意味して、命名しました。

地域の自然環境を保全するために、平成12年7月には行政、自治会、カーカネットの会も含めた環境保護団体の組織による「明見湖整備検討委員会」が設立され、明見湖と里山を取り込んだ「住民の憩いの場公園化構想」を進めています。

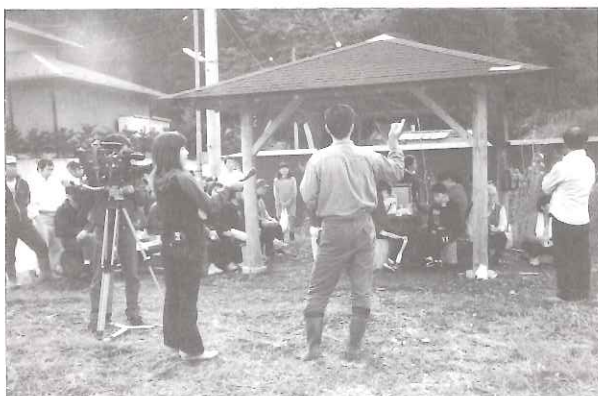
主に取り組んでいることは、

- ①環境に対する意識を高揚するために様々な内容の学習会を行う
- ②明見湖の水質浄化システムを確立するため、県内の農場や茨城県霞ヶ浦などの視察・見学を行う
- ③明見湖周辺の花壇づくり
- ④桂川・相模川流域協議会のクリーンキャンペーンに参加
- ⑤廃油石けんづくりなどです。

また、自然の恵みに感謝しながら、春には山菜を採って郷土料理をつくり、地域の人々と共に試食をして、若い世代にも伝承していく活動もしています。

明見湖は小さな湖ですが、まだまだ自然が豊富で故郷の雰囲気を感じることが出来ます。皆様、ぜひ一度足をお運びになってください。

(カーカネットの会代表)



TV取材を受けた里山環境学習会

### 鳩川・縄文の谷戸の会

倉橋満知子

私たちの会は、鳩川沿いに残る縄文遺跡公園予定地内で、谷戸田を耕し、関連する環境保全を実施しています。

鳩川は相模原市を南北に流れる相模川の支流の一つですが、都市排水路の位置づけで、汚染度も1、2位を争うような状況です。また、真ん中を分水路で分断しており、上流部は相模川へ放水され、私たちは下流部の鳩川に位置しています。第二の鳩川とも言うべき川の中で、市内で唯一、谷戸の原景を残しており、周辺の自然環境を維持すれば、良好な生態系が保てる余地があります。数年先に予定されている公園づくりにも、谷戸田を取り入れるよう要望しています。また、市民が企画から参加でき、運営、管理の面でも市民参加型の公園づくりになるようにも希望しています。そのために、現在、民間地である休耕田を借りて、米作りをはじめとして、畑や、藍染め、茶づくり、炭焼き、植物や生きもの調査などの活動をしています。



農作業を始めて3年が経過し、会員は20代から60代まで30名程です。参加の仕方や思いは個々によって様々ですが、保全というより楽しみのほうが優先しており、肉体労働のきつさも忘れさせているようです。しかし農作業の体験の中で、予想以上の発見を自然から学ぶことの多さに、皆、感激しております。「田んぼ」だからこそ言えることとも思えます。

鳩川のため、と思って始めたことが、自然の摂理にしっかりコントロールされていることを実感し、いかに人間が愚かで傲慢な破壊をしてきたか、こんな狭い空間の中で知らされます。環境学習の必要性が唱えられている今日、身近な所にこそ体験できる自然空間が重要となります。地域や学校そして行政などと連携をとりながら私たちができることを続けていきたいと考えています。

(鳩川・縄文の谷戸の会代表)



## イーハトーヴ農場のこと

三澤 孝道

突然ですが、イーハトーヴまたはイーハトブという言葉を知っていますか。あるいはその意味を知っていますか。

これは宮澤賢治の造語で、彼の心の中に存在し、理想とした理想郷としての岩手県だそうです。そこではあらゆる事が可能で、全てのものが仲よく暮らせるのだそうです。

ほんの聞きかじりで恐縮ですが、そのようなことなのだそうです。本当にそんな世界が存在したら、なんて素晴らしいんでしょう。このような理想に億分の一でも近づけたら…。そんな思いから、十年前、岩手県の玉山村藪川という北上山系の山間に、イーハトーヴ農場を開設しました。

この地は本州一の厳寒の地で、冬季には日中でも零下十度などというのは珍しくもない所です。それだけに開発も遅れ、豊かな自然に恵まれています。イーハトーヴ農場はそこで、借地も含め約十萬坪の土地を耕しています。

作物はそばが主体で（この地は高品質なそば産地）そのほか自給用を含む米、穀類、野菜など数十種類の作物をつくっています。事務所兼住居は、廃屋に手を入れて使っています。電気、ガスはありますが、水道はありません。飲み水は山の湧水をパイプで引っぱってきて使っています。冬季には凍結することが多いので、沢水を使っています。ここで月のうち1~2週間暮らしています。

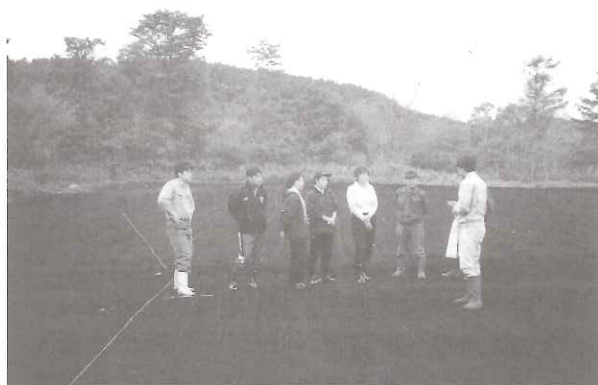
ここにいると、都市の生活では何気なく見過ごしてきたものがよく見えてきます。生命にとって欠かすことのできない水一つをとっても、ここでは実感として上流（山とか森）の大切さがよくわかります。人間は自然の一部であり、自然のふところの中で生かされているということも…。生命ということを真剣に考えさせてくれるんですね。

これは私だけのことではなく、多分、誰でもそういう環境に身をおけば感じられることだと思うんです。イーハトーヴ農場はそういうきっかけづくりの場でもありたい。そんなことを考えています。

（共生食品株式会社代表取締役）



ここでは社長も大事な働き手の一人



まずは作業の打合せ…



周囲の森との共生も考えて



一面ソバの花で埋まる

## 地下水・湧水の街、座間市

岩野 修一

『座間の水は美味である。特に夏、のどを潤す冷たい水のおいしさはこたえられない。地下水を汲み上げた水道水のおかげだ』これは水に関するアンケート実施時の市民の感想の一部であり、「うまい水」として座間市の特色となっています。

当市は、神奈川県のおぼ中央にあって相模原台地の南部に位置しており、人口は約12万6千人です。また、当市の特徴としては、周辺市が県営水道による給水を受けているのに対し、地下水による水道事業を市単独で行っていることです。その量は当市全体の日配水量約4万m<sup>3</sup>の85%を賅っています。

このため市民の地下水に対する関心が高く、平成10年12月に「座間市の地下水を保全する条例」が制定され、現在この条例に基づき、次のような地下水の保全に関する取組みを行っています。

- 1、地下水総合調査（近隣市を含めた地形、地質、水収支の調査）
- 2、地下水に関する規制・指導（地下水利用者の実態把握、水量・水質の規制・指導）
- 3、水源保護に関する施策（地下水涵養策等の推進）
- 4、市民・事業者・行政の連携（地下水連絡協議会の設置）

これらの取組みにより、貴重な水資源の確保に日々努めております。

については当市に来られたら、ぜひ座間の水道水を飲んでみて下さい。夏冷たく、冬には暖かく感じられ、一飲みで「うまい」と思われるはずですよ。

また、市内には湧水スポットがあり、湧水にふれたりホタルの姿を目にすることもできます。

ここまで、地下水のことばかりでしたが、次に市内の河川について紹介します。

市内には相模川の他に鳩川と目久尻川が流れています。鳩川は、主に田園と住宅地との間を流れ、公共下水道の普及のおかげで環境基準（BOD）ぎりぎりのところまできれいになってきています。目久尻川は住宅や工場の中を流れているため、上流の水質が悪い都市型河川で、環境基準は満足していません。公共下水道の早期普及が待たれます。

相模川の水質についてはご存じのことと思いますが、この川は一年を通じ、バーベキューや釣りなどの市民の憩いの場となっています。また、ゴールデンウィークには「大風まつり」も盛大に行われ、大勢の市民が訪れます。川を守るために、今後ともクリーンキャンペーンなどの河川美化を推進していきたいと考えています。

（座間市環境保全課）



座間の大風まつり



## 流域地名考

平塚市や茅ヶ崎市など、相模川の下流域に住んでいる人は、昔からこの川を馬入川（ばにゅうがわ）と呼んでいます。

この川をどうして馬入川と言うのか定かではありませんが、一説によると、鎌倉時代の建久9年12月、時の将軍源頼朝公が臨席して開橋式を挙げた際に乗馬もろとも相模川に落ち、以来、馬入川と呼ぶようになったと言伝えられています。

ところで、新編相模国風土記（天保期に江戸幕府が編纂した地誌）によりますと、『相模川の源は、甲斐国都留郡富嶽の麓より湧出し、上野原村より津久井郡名倉村に入り、高座、愛甲、大住三郡の界を東流して、末は高座、大住両郡の界にて海に入る。水路凡<sup>およそ</sup>16里半、幅70間より100間余に及び。東海道に係る所に渡津あり、其の<sup>おと</sup>辺にては馬入川と呼ぶ。此の川は国中の大河なれば国名を以てかく唱ふるならん。また、水源富士山の北麓甲州都留郡吉田村月光寺境内より湧出し、同州同郡の間を東流すること10里余。その間を桂川と呼ぶ。当国内にては相模川と称す。西方名倉村と甲州上野原村の間より<sup>うねりぎ</sup>沃来て東流し、日蓮名村と与瀬宿との間にて甚しく、夫より曲直東流して小倉村より斜に向い概ぎ、葉山嶋村の下にて高座の郡界となれり。

対岸は大島村なり。夫より東に至りては即高座郡田名村と愛甲郡角田村の間に沃って東流せり。水路凡<sup>はかり</sup>10里許、川幅広狭ありて20間以上30間にも及ぶべし。両岸総て磐岩多く、堤防を築作するに及ばずして水害なし。水路の変替沿革なし。按ずるに道志川及び秋川、沢井川、早戸川、串川を

称して県内五川と呼びて、その名相模川に挙げれり…』

と解説されています。

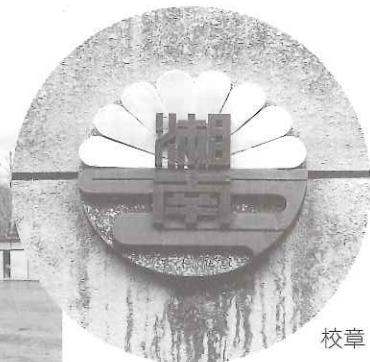
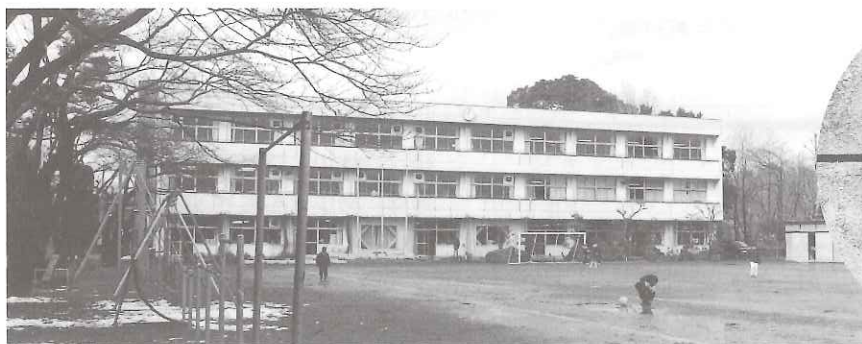
余談ですが、明治22年には、津久井郡に湘南村（現城山町）が誕生しています。この湘南村は小倉村と葉山嶋村とが合併して生まれた村であり、その地名の名残りでしょうか、湘南小学校が今でも存在します。湘南と名付けた由来は、相模川を文人が湘江と呼んでいることにちなみ、湘江の南側の村という（角川：日本地名大辞典による）ものです。

今でこそ相模湾に面した神奈川県南部一帯を湘南と呼んで、人気の高いイメージを誇っていますが、100年以上も前に湘南村という地名があったことは確かです。

また、明治甲斐史南都留郡の項によれば『桂川は山中湖より発し、谷村の西に至り、懸て田原の大瀑布となる。郡中の衆流を合はせて北都留郡に入る』とあり、同誌北都留郡の項では『桂川は南都留郡より来り、笹子、葛野の両川を合はせ、猿橋を過ぎて東流し、更に鶴川、堺川を合はせ、相模に入り、相模川（馬入川）となる。之を郡中の巨流となす。兩岸絶壁の間に橋あり、猿橋（表紙写真参照）と言ふ。奇巧を以て称さる。一度尋ぬべし』と紹介しています。

以上、昔の文献から相模川に関する記述を引っ張り出してみましたが、山梨県（甲斐国）と神奈川県（相模国）のみなさん！この文中にはすでに使われていない地名がたくさん登場しています。現在と比べてみるのも面白いと思います。（S）

湘南村の名残り留める湘南小



校章

## 『あじえんだ113』の編集をしてみませんか

ただいま、本会報誌の編集委員を募集しています。

『あじえんだ113』を読んでおわかりのように、この会報誌には市民、事業者、行政の方々が原稿を寄せています。こんな会報誌はもしかしたら、全国でも珍しいのかも。三者が協議会のメンバーですから当たり前ですが…。中でも巻頭の「キーワード随想」は、会の個性を活かした記事です。テーマを決め、共通するいくつかのキーワードを用い、それぞれの立場から思いや意見を書きます。三者が意見を交換し、連携して環境保全を進めるために役立てることもねらいです。

流域の情報を知らせる「流域ウォッチング」、平塚市博物館学芸員である浜口哲一さんの連載「生きものたちの語る相模川」など新しい企画も加わり、楽しみにしている方も多いようです。

編集も三者（現在は市民と行政）で行っています。会員の皆さんの中には、編集に興味があるとか、こん

な記事内容がほしい、加えてなど、会報に対する希望があると思います。いろいろな意見をもって編集に加わってくださる市民の方、事業者の方をお待ちしております。なお、「編集委員」などといえはいかめしく聞こえますが、もともとが素人の集まりです。主業務は原稿に目をとおす作業と意見交換などで、どなたにもできることばかりです。唯一の条件といえば、「好奇心人間であること」でしょうか。

記名投稿も募集しています。桂川・相模川の情報、思わず笑ってしまうような楽しい話題、厳しいご意見など、皆さんの生の声をどしどしお寄せください。会員でなくても構いませんので、ふるって原稿を送ってください。

お申込み、お問合せは事務局までお願いします。

(代表幹事 桑垣美和子)

## お知らせ

### 上下流交流事業・植林作業体験 参加者を募集します

日時：平成13年5月12日(土)～13日(日)  
場所：山梨県南都留郡忍野村、足和田村ほか  
内容：植林作業体験(1日目)  
意見交換と「青木ヶ原樹海」自然観察(2日目)  
主催：桂川・相模川流域協議会



## あなたも入会しませんか!

- ★市民年会費：個人会員 一口1,000円(一口以上)  
なお、団体として加入される会員の方は、二口以上でお願いします。
- ★事業者年会費：一口10,000円(一口以上)

### <振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259  
名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 さくら銀行横浜支店  
普通預金 6825559  
名 義 桂川・相模川流域協議会  
代表幹事 桑垣美和子

## 編 集 後 記

### ◆春は出会いと別れの季節。

それぞれ、たくさんの思い出や感動があると思いますが、この会報からも、あなたに忘れることのできない出会いがありますように、こだわって情報発信していきます。(R)

### ◆オーロラの当たり年を期待して訪れた北緯70度の町は連日の雨。

土地の古老も初めてとかいう北極圏の異常暖冬は、地球環境を粗末にする人類への神の怒りなのかも。(A)

### ◆明治神宮の鬱蒼とした社は今から80年前、当時の林学者たちが100

年先の姿を描いて、樹種を選び、植え方を工夫してできた森で、自然の力と人間の知恵が融合した賜物です。その壮大な計画にロマンを感じるのと同時に、目先のことだけでなく100年先を見越した事ができたらなあと思います。(Y)

あじえんだ113 No.6 (2001.3.15発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県森林環境部環境活動推進課 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL(055)223-1503 FAX(055)223-1507

神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)